



- 研究テーマ 発達障害児における神経生理学的指標の開発
- 所属職名氏名 学校教育講座 教授 根來秀樹
- 研究シーズ概要
- 身体の発達や知能の発達以外にも、注意、落ち着き、衝動性を抑えること、社会性などにも発達があり、そのうち特定の領域において、周囲の子ども達に比べ、ゆっくり発達する子どもがいることがわかってきました。
- 彼らのうちの一部が、最近よく話題になる「発達障害」(神経発達症)がある子ども達です。彼らは得意な領域も多いため、周囲からは「ふざけ」や「わがまま」が原因であるなどと誤って捉えられていることも多いようです。
- 私の研究テーマはこれらを客観的に捉えることができる神経生理学的指標の開発です。

◆右の図は脳内の血流変化を簡単に測定できるNIRSという機器を使用して、衝動性を抑えることが必要な課題を子ども達にしてもらっている時の脳内の様子です。

◆注意欠如・多動症(ADHD)の子ども達(図の左側)は、定型発達の子どもの達(図の右側)に比べ、血流の増加があまりないことがわかります。

(Negoro H.et al.,Child Psychiatry Hum Dev.2010;41(2):193-203.)

